

平成28年度 独立行政法人国立病院機構甲府病院 病院指標

[医療法における病院等の広告規制について（厚生労働省）](#)

1. [年齢階級別退院患者数](#)
2. [診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）](#)
3. [初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数](#)
4. [成人市中肺炎の重症度別患者数等](#)
5. [脳梗塞のICD10別患者数等](#)
6. [診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）](#)
7. [その他（D I C、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）](#)

年齢階級別退院患者数

[ファイルをダウンロード](#)

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	539人	291人	164人	156人	162人	134人	193人	263人	270人	84人

当院では小児科病床のほか、成育医療としてNICUを有しており、山梨県の地域周産期母子医療センターに指定されていることもあり、年齢構成で最も多いのは0～9歳までの新生児や小児科の患者さんで、全体の約24%を占めております。

年齢別で傷病の頻度を見ますと、10歳代、20歳代は膝疾患が最も多く、スポーツが原因の傷害（ケガ）で治療される学生の患者さんが多くっております。

30歳代は切迫早産や骨盤位等で帝王切開に至る分娩など産科疾患が半数以上でした。

40歳代～70歳代では膝疾患が最も多くなっており、年齢階級が上がると同時に悪性新生物の患者数が増えております。

80歳代以上では、肺炎などの呼吸器疾患が多いですが、脊椎圧迫骨折（胸椎または腰椎）や大腿骨骨折も多く、他の年齢層と比較すると傷病の頻度は多種多様です。

◇集計方法・定義

- ・退院患者を10歳刻みの年齢階級別に集計しました。
- ・年齢階級別に集計することにより、その病院の特徴や患者構成をおおよそ知ることができます
- ・年齢は入院時における満年齢を基準とし、90歳以上を1つの階級として設定しています。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

[ファイルをダウンロード](#)

■ 内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	13人	36.4日	21.3日	30.8%	85.3歳	
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 定義副傷病なし	11人	12.9日	12.4日	9.1%	67.7歳	
150010xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2なし	-	-	-	-	-	
100071xx99x000	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）手術なし 処置等2なし 定義副傷病なし 重症度等85未満	-	-	-	-	-	
0400801499x002	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上）手術なし 処置等2なし 定義副傷病なし 重症度A-DROPスコア2	-	-	-	-	-	

内科では、基本的な一般内科診療を行っています。最も多いのは誤嚥性肺炎で、平均年齢は85歳以上と高齢となっております。そのため重症化しやすいこともあり、平均在院日数も長くなっている傾向があります。

2番目に多いのは、急性腎盂腎炎など尿路感染症です。

3番目に多いのは急性胃腸炎で、4番目が2型糖尿病、5番目が細菌性やウイルス性等、誤嚥性肺炎以外の肺炎です。

※患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (出生時体重2500g以上) 手術なし 手 術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	106人	11.5日	6.2日	0.9%	0.0歳	
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感 染症(その他) 定義副傷病なし	85人	6.9日	6.0日	4.7%	2.1歳	
0400801199x00x	肺炎等(1歳以上15歳未満) 手術なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	62人	7.2日	5.8日	6.5%	5.3歳	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	43人	6.0日	6.4日	14.0%	3.1歳	
140010x299x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (出生時体重1500g以上2500g未満) 手術なし 手術・処置等 2 なし	32人	19.3日	11.6日	0.0%	0.0歳	

当院は未熟児を中心とした周産期医療としてNICUを有しており、新生児への集中治療を実施しています。そのため小児科で最も多いのは、新生児一過性多呼吸や新生児無呼吸発作などの新生児疾患です。5番目も同じ新生児疾患ですが、出生体重により分けられます。2、3、4番目に多いのはいずれも呼吸器疾患であり、肺炎などの呼吸器感染症による入院としては、秋から冬にかけて多くなっております。

■外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術 等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 定義副傷病なし	54人	5.6日	7.6日	3.7%	57.8歳	
060050xx02x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含 む。) 肝切除術 部分切除等 手術・処置等 2 なし	19人	12.4日	15.9日	0.0%	68.2歳	
060020xx99x30x	胃の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置 2 - 3 あり 定義副傷病なし	17人	5.2日	6.9日	0.0%	63.5歳	
060330xx02xxxx	胆嚢疾患(胆嚢結石など) 腹腔鏡下胆嚢 摘出術等	13人	5.9日	6.8日	0.0%	62.5歳	
060035xx01000x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除 術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 処置等 1 なし 処置等 2 なし 定義副傷病な し	-	-	-	-	-	

最も多いのは胆石性を含む胆嚢炎でした。当院では単孔式の腹腔鏡下胆嚢摘出術を実施しており、平均在院日数の短縮につながっていると考えます。

2番目に多いのは肝臓の悪性腫瘍です。28年6月より腹腔鏡下での肝切除術の施設基準を取得しており、それに伴い肝臓の腹腔鏡手術が増えています。

3番目に多いのは胃の悪性腫瘍の化学療法での入院です。4番目は胆のう結石症、5番目は結腸の悪性腫瘍です。

※鼠径ヘルニア手術は短期滞在手術基本料対象のため表には掲載されておりません。平成28年度鼠径ヘルニアの患者数は25人でした。

■整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者 用バ ス
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 縫合術等	512人	19.1日	11.9日	0.0%	35.2歳	
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	45人	27.4日	27.6日	46.7%	85.1歳	
070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。) 人工関節 再置換術等	35人	30.9日	26.3日	0.0%	73.8歳	
160990xx97x0xx	多部位外傷 手術あり 手術・処置等 2 なし	34人	19.6日	20.7日	5.9%	54.9歳	
070085xx97xxxx	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症(上肢 以外) 手術あり	25人	13.8日	14.4日	0.0%	42.5歳	

最も多いのは膝半月板損傷や膝十字靭帯損傷等の膝疾患での手術症例となっており、整形外科全症例数の約61%を占めています。2番目に多いのは大腿骨骨折です。当院では他の施設と大腿骨骨折の診療について連携をとっており、慢性期の病院やリハビリ病院等へ転院するケースが多く、転院率は高くなっております。3番目は変形性膝関節症、4、5番目も膝疾患による手術症例でした。当院の整形外科ではスポーツ膝疾患治療センターを開設しており、特に膝関節疾患の治療を積極的に行っておりますので、膝疾患の患者数が多くなっています。

■産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
120140xxxxxxx	流産	17人	2.2日	2.4日	0.0%	33.1歳	
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	15人	9.6日	9.9日	0.0%	34.5歳	
120200xx99xxxx	妊娠中の糖尿病 手術なし	10人	6.6日	6.1日	0.0%	35.3歳	
120260xx01xxxx	分娩の異常 子宮破裂手術等	-	-	-	-	-	
120180xx02xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 骨盤位娩出術等	-	-	-	-	-	

最も多いのは稽留流産で、2番目に多いのは、前回の出産が帝王切開だったケースや、骨盤位等により帝王切開を実施したものです。3番目に多いのは、妊娠中の糖尿病でした。これには妊娠中にはじめて発見された代謝異常によるもの（妊娠糖尿病）と、妊娠前にすでに糖尿病と診断されていた方が妊娠した場合（糖尿病合併妊娠）の両方が含まれます。当院は山梨県の地域周産期母子医療センターに指定されていることもあり、婦人科系疾患より産科系の患者数が多くなっています。そのため上位5つすべてが妊娠・分娩に係る産科疾患となっています。※患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数 [ファイルをダウンロード](#)

	初発					再発	病期分類 基準（※）	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	-	-	-	19人	-	-	1	7版
大腸癌	-	-	-	15人	-	-	1	7版
乳癌	-	-	-	-	-	-	1	7版
肺癌	-	-	-	-	-	-	1	7版
肝癌	18人	-	-	-	-	-	1	7版

※ 1：UICC TNM分類， 2：癌取扱い規約

患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。患者数で最も多いのは大腸癌（45件）で、次いで胃癌（39件）、肝癌（28件）、乳癌（11件）と続きます。肺癌については当院は呼吸器科での入院診療は行っていないため該当症例はありません。上記の表を見ますと、肝癌は比較的早期がんの割合が多くなっておりますが、胃癌、大腸癌ではステージIVの症例数が多いことから、比較的進行した状態での治療患者が多くなっていることが分かります。胃癌、大腸癌、肝癌については、より体への負担が少なく病気を根治に導くことを目的として腹腔鏡下による手術を積極的に行っています。

◇集計方法・定義

- ・全国で罹患率の高い、5大癌（胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌）の患者さんの人数を、病期分類（UICC分類）別および再発に分けて集計しました。
- ・集計期間中に複数回入院退院を繰り返した場合にも、1症例1カウントとして集計しています。
- ・「初発」として集計された症例は、「再発」には集計されません。

成人市中肺炎の重症度別患者数等 [ファイルをダウンロード](#)

	患者数	平均 在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	19人	24.4日	70.0歳
重症	-	-	-
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

患者数が最も多いのは、中等症の症例でした。

表には掲載していませんが、重症度が重くなるにつれ平均年齢が高くなっており、平均在院日数についても長くなっています。

◇集計方法・定義

- ・成人（15歳以上）の市中肺炎の患者さんを重症度別に、患者数、平均在院日数、平均年齢を集計しました。
※市中肺炎とは、日常生活の中で罹患する肺炎をいいます。
- ・入院のきっかけとなった傷病名、および最も医療資源を投入した傷病名が、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC：040080相当）の症例を集計対象としています。
- ・ウイルス性肺炎（DPC：040070相当）および誤嚥性肺炎（DPC：040081相当）は集計対象から除外しています。
- ・重症度は、日本呼吸器学会の「成人市中肺炎診療ガイドライン」によるA-DROPスコアを用います。

脳梗塞のICD10別患者数等

[ファイルをダウンロード](#)

ICD10	傷病名	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群	-	-	-	-	-
G46\$	脳血管疾患における脳の血管(性)症候群	-	-	-	-	-
I63\$	脳梗塞	3日以内	15人	26.3日	77.2歳	40.0%
		その他	-	33.0日	86.0歳	100.0%
I65\$	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	-	-	-	-	-
I66\$	脳動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	-	-	-	-	-
I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症>	-	-	-	-	-
I679	脳血管疾患、詳細不明	-	-	-	-	-

患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

I63\$ 脳梗塞が最も多く、次いでG45\$ 一過性脳虚血発作となっております。上記の表のとおり、脳梗塞発症から「3日以内」の急性期に入院される患者さんが多くっており、早期からの入院治療が行われていることが分かります。

◇集計方法・定義

- ・脳梗塞の病型別の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を集計しました。
- ・最も医療資源を投入した傷病名のICD-10別に集計しています。
- ・発症日から「3日以内」、「その他」に分けて掲載しています。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

[ファイルをダウンロード](#)

■ 外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	72人	1.8日	4.8日	5.6%	59.7歳	
K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	25人	0.4日	1.1日	0.0%	65.0歳	
K695-21	腹腔鏡下肝切除術（部分切除）	18人	3.1日	8.2日	0.0%	67.3歳	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	12人	3.0日	11.6日	0.0%	69.6歳	
K7211	内視鏡的大腸粘膜切除術（長径2cm未満）	-	-	-	-	-	

手術件数で最も多いのは、腹腔鏡下胆嚢摘出術です。当院では胆嚢は強い胆嚢炎も含む全症例を、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っており、平均術後日数は4.8日となっています。2番目は鼠径ヘルニアの手術であり、こちらは平均術後日数が1.1日とかなり早期で退院されていることが分かります。

3番目は腹腔鏡下肝切除術（部分切除）です。当院では28年6月より腹腔鏡下での肝切除術の施設基準を取得しており、それに伴い肝臓の腹腔鏡手術が増加しています。

4番目は結腸の悪性腫瘍に対する腹腔鏡結腸悪性腫瘍切除術です。なお、2番目と5番目の手術については、短期滞在手術等基本料の対象です。

※患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

■ 整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K068-2	関節鏡下半月板切除術	225人	1.1日	13.4日	0.0%	51.3歳	
K066-21	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	187人	1.1日	9.1日	0.0%	26.8歳	
K079-21	関節鏡下靭帯断裂形成手術（十字靭帯）	90人	5.8日	27.4日	0.0%	23.5歳	
K069-3	関節鏡下半月板縫合術	51人	1.0日	24.3日	0.0%	28.6歳	
K0461	骨折観血的手術（大腿）	40人	2.6日	27.5日	52.5%	85.1歳	

上位4つはいずれも膝疾患に対する手術であり、整形外科の全手術症例のうち約7割近くをこの3つが占めています。当院ではスポーツ・膝疾患治療センターを開設しており、膝の傷害（ケガ）で来院される患者さんが多く、それに伴い手術件数も多くなっています。また学生の患者さんも多いため、平均年齢も低くなっています。

3番目の関節鏡下靭帯断裂形成手術（十字靭帯）は、一入院の中で期間を空けて別の膝疾患に対する手術を実施するケースがあるため、平均術後日数が27.4日と上位2つと比較すると長めになっています。5番目は大腿骨骨折に対する手術であり、平均年齢は高齢層となっています。

■ 産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	16人	2.1日	8.4日	0.0%	32.9歳	
K9091	流産手術（妊娠11週まで）	16人	0.2日	1.0日	0.0%	33.6歳	
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	13人	2.2日	7.9日	0.0%	34.5歳	
K9062	子宮頸管縫縮術（シロッカー法）	-	-	-	-	-	
K877	子宮全摘術	-	-	-	-	-	

最も多いのは緊急の帝王切開および妊娠11週までの流産手術となっており、3番目が選択帝王切開です。2種類の帝王切開のうち、緊急帝王切開は経膈分娩の途中で陣痛が弱くなったり、何らかの異常により分娩が停止してしまった場合等に実施するものです。選択帝王切開は、あらかじめ帝王切開が予定されていた場合の術式名称であり、双胎妊娠や骨盤位、前回のお産も帝王切開だった患者さんの場合等に実施します。どちらの帝王切開においても、平均術後日数、平均年齢に大きな差はありません。

※患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

■ 眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821 0	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	94人	0.0日	2.2日	0.0%	79.0歳	
K224	翼状片手術（弁の移植を要する）	-	-	-	-	-	
K2821 イ	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（縫着レンズ挿入）	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

眼科の入院において実施される手術は1番目の白内障に対する手術が主となっています。

通常、2泊3日の入院期間で実施しています。（片目の場合）

※患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

[ファイルをダウンロード](#)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	-	-
		異なる	-	-

患者数が10名未満の場合は「-」表示していますが、患者数「0」というわけではありません。

当院ではDIC（播種性血管内凝固）が0.09%、敗血症が0.62%、手術処置等の合併症が0.18%の発症率となっており、いずれも1割以下の発症率です。これら合併症については、臨床上ゼロにはなりえないものですが、少しでも改善できるよう努めています。

◇集計方法・定義

- ・医療資源を最も投入した傷病名がDIC、敗血症、その他の真菌症および手術、処置後の合併症の患者数と発症率を集計しました。
- ・入院のきっかけとなった傷病名が「同一」か「異なる」かに分類して集計しています。

更新履歴

29.9.28 平成28年度 病院指標を公開しました。